

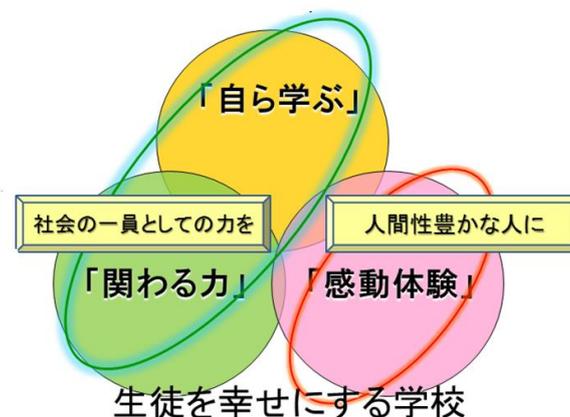
令和4年度 学校経営方針

荒川区立諏訪台中学校
校長 代市 利光

I 本校の教育目標(目指す生徒像)

人間尊重の精神を基調とし、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを通して、広く国際社会に生きる人間の育成を目指す。

- ・自ら考え、進んで学ぶ生徒 【知の自立】
- ・豊かな心を持ち、思いやりのある生徒【心の自立】
- ・心身ともに健康で、たくましい生徒【体の自立】
- ・地域とともに学び、地域を愛する生徒【郷土愛】



II 目指す学校像

「生徒を幸せにする学校 — 今を、そして将来にわたって」

- 1 社会の一員としての力を … 自ら学び、考える力を。人と関わることのできる力を。
- 2 人間性豊かな人に … 諏訪台中ならではの体験を。

III 本年度の重点目標

「確かな学力の定着・向上を図るとともに、豊かな人間性を育成する。」

- 1 学び方指導と家庭学習により、自ら学ぶ力を身につけさせることで、学力の定着・向上を図る。
- 2 ICT機器の活用等により、学ぶ機会と意欲を喚起させる。また、教師がその指導力を改善することで、学習指導の充実を図る。
- 3 学校図書館の授業活用や読書啓発活動により、学習意欲の向上を図る。
- 4 外部人材等の活用により、諏訪台中ならではの活動を取り入れ、教育活動全体の充実を図る。
- 5 文化的活動や奉仕活動、職業体験等の充実により、社会性を育成することで、豊かな人間性を醸成する。

IV 指導の重点

上記の重点目標について、学校パワーアップ事業を有効に活用しながら、組織的な実践により具現化を図る。

- 1 学びの“場”を保障する学校づくりで、確かな学力を(「学力向上マニフェスト」等を活用して)
 - ① 学び方指導と家庭学習の定着
 - ・学習の仕方指導や自習ノートによる学習支援、web教材の有効活用により、意欲の向上と基礎学力の定着を図る。
 - ② 指導力の向上と指導方法の改善
 - ・デジタル教科書やタブレットPC等のICT活用やALの推進により、指導力の向上とその改善を図る。
 - ③ 学校図書館の活用
 - ・「調べる学習コンクール」「ヒブリアバトル」等、授業での図書館活用や読書行事を推進する。
 - ④ 『あらかわ寺子屋』事業の活用
 - ・諏訪台中3つの「てらこや」の充実により、学力の定着・向上を図る。
- 2 文化的で教養のある学校づくりで、豊かな人間性を(「想像力あふれる教育の推進」等を活用して)
 - ① 文化的活動・表現活動の充実
 - ・合唱や演奏、演技表現などの音楽活動や発表活動に、専門家指導の導入等を行うことで、技術レベルの向上を図るとともに、芸術表現の美しさや共同体験の楽しさなどを味わわせる。
 - ② 人間力を育てる指導の充実
 - ・Q-Uを活用した学級活動の活性化や道徳授業の改善等により、互いを尊重する姿勢と規範意識の醸成を図る、人間性を育む教育の充実を図る。
 - ③ 個性を伸ばす教育の充実
 - ・読書活動の推進や日本語指導の充実、部活動の推進等により、一人一人の個性を伸ばし、支援する教育活

動の充実を図る。

④ 英語教育の充実

・関連行事の新設・強化や英語検定の奨励等により、指導体制の充実と学習意欲の向上を図る。

3 関わりを大切にする学校づくりで、社会の一員としての力を（「未来を拓く子どもの育成」等を活用して）

① キャリア教育の推進

・「校内ハローワーク」等、キャリア教育に関わる取組を継続推進することで、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲や態度、能力の育成を図る。

② 奉仕の精神の醸成

・JRC活動や地域貢献活動、学習環境整備の取り組むことで、社会貢献意識や奉仕の精神の育成を図る。

・防災部を中心に、地域と連携した防災教育活動に取り組むことで、防災意識の向上とその実践力を養う。

③ 地域と関わる教育活動の充実

・教育活動に地域人材を導入・活用することで、その充実を図るとともに、地域・社会の一員としての自覚をもたせる。

4 生徒(生活・進路)指導を通して（生徒の心と体の成長を支える）

① 生活指導（「社会生活で通用する」態度・習慣を）

・信頼関係を基盤に …生徒「認め・励まし・褒め、支える」、保護者「共に育てる」

・軸をつくる指導を …「時間・あいさつ・みだしなみ」、「規範意識」、「自尊感情」

・組織的な対応で …「共通理解・共同実践」、「早期発見・早期対応」

② 進路指導（「社会で働いていく」ための生き方指導を）

・キャリア教育の視点で…「基礎的・汎用的能力の育成」

・軸をつくる指導を …「望ましい勤労観・職業観」

・組織的な対応で …「進路学習部が中心となり」、「発達段階に応じ」、「系統的・計画的に」

③ 特別支援教育（「学ぶ喜び」をすべての生徒に）

・UDの視点で …「すべての生徒が安心できる環境の整備」

・軸を作る指導を …「わかる授業作り」、「落ち着いた学校生活」

・組織的な対応で …「研修の強化」、「共通理解・共同実践」

V 組織・運営

1 円滑・適切な学校運営

① 校務分掌に基づき、組織的な運営を行う。

② 円滑な運営のため、主幹・主任は所管分掌等の進行管理、状況把握・確認を行う。

③ 「報告・連絡・相談」、「確認・報告」を徹底し、より適切な学校運営に努める。

④ 学年間での確実な情報共有

2 研究・研修

① 課題意識に基づき、校内研修等を活用し、教科等の指導力の向上を図る。

② ライフステージに応じ、OJTにより教員としてのスキルの向上を図る。

3 保護者・地域との連携

① 適切な情報提供や日頃の電話連絡、家庭訪問、メール配信活用等により、相互理解が深まるよう努め、保護者との信頼関係を築く。

② 地域人材の活用や地域行事への参加など、学校教育活動と関連させることで、地域との連携関係を築く。

4 サービスの厳正

① 法令順守、勤務の厳正によるサービス規律の確保

② サービス研修の月1回実施等による体罰等のサービス事故防止

5 危機管理

① 「命を守る」という観点に立ち、緊急事態発生時の体制を確立する（事件・事故、災害、衛生管理、学習指導、生徒指導、薬品管理、対外折衝等）。

② 生徒の個人情報の管理、学校事務の処理等については細心の注意を払い、適切に行う。